

詳細分布調査報告書

加 茂 町 の 遺 跡

— 赤 川 以 北 —

平成3年3月

島 根 県

加 茂 町 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は加茂町教育委員会が、平成2年度国庫補助を受けて実施した加茂町内赤川以北（北大西地区を除く）遺跡分布調査の報告書であり、昭和62年度及び平成元年度実施の分布調査を継承するものである。

1. 調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 加茂町教育委員会 教育長 太田 潔

調査指導 丹羽野裕（島根県教育庁文化課主事）
蓮岡法暲（島根県文化財保護指導委員）

調査担当者 杉原清一（島根県文化財保護指導委員）

調査員 藤原友子（飯石郡三刀屋町）

事務局 杉原佳林（加茂町教育委員会係長）
杉原顕道（加茂町教育委員会社会教育指導員）

3. 調査成果は分布図及び一覧表としたほか、個別に調査カードを作成し向後に備えた。

なお遺跡番号は島根県遺跡地図(1987)に拠った。

4. 収録した遺跡のうちには既に消滅したものも含む。また古墓は石塔に着目して調査を行った。

過年度報告区域（赤川以南地域）についてその後発見した遺跡は補遺として本書に追加収録した。

5. 分布調査は踏査によるもので地表の表徴観察であり、埋蔵文化財のすべてが網羅されているとはいえない。従って分布図上の空白地でも将来発見されることがありうる。

6. 踏査にあたって明治22年編成の字切地図に基づく小字地名（加茂町誌所載）及び口碑伝承等も参考とした。また次の各位はじめ多くの方から協力や情報資料の提供を受けた。記して謝意を表します。

中林明正 坂本倉義 宮川昌彦 広野和夫 岡 一男

今岡 勇 錦織 博 深田盛広 永瀬国雄 原田福則

光明寺 加茂小学校 税務課

玉湯町立玉作資料館

7. 本書に用いた地図は主として加茂町開発課所管に関わる地形図である。

8. 本書の編集執筆は調査者が行った。

目 次

例 言

| | |
|--------------------|---------------|
| 遺跡分布図(1)～(8) | 2 |
| 遺跡一覧表 | 10 |
| | |
| I 遺跡の分布概況 | 13 |
| II 主な遺跡 | 16 |
| 1. 古墳時代 | 16 |
| 2. 中世城砦 | 20 |
| 3. 古墳・寺社跡 | 22 |
| 4. 出土和鏡について | 25 |
| | |
| 小字地名一覧（赤川以北） | 28 |
| 図 版 | (P L 1 ~ 6) |

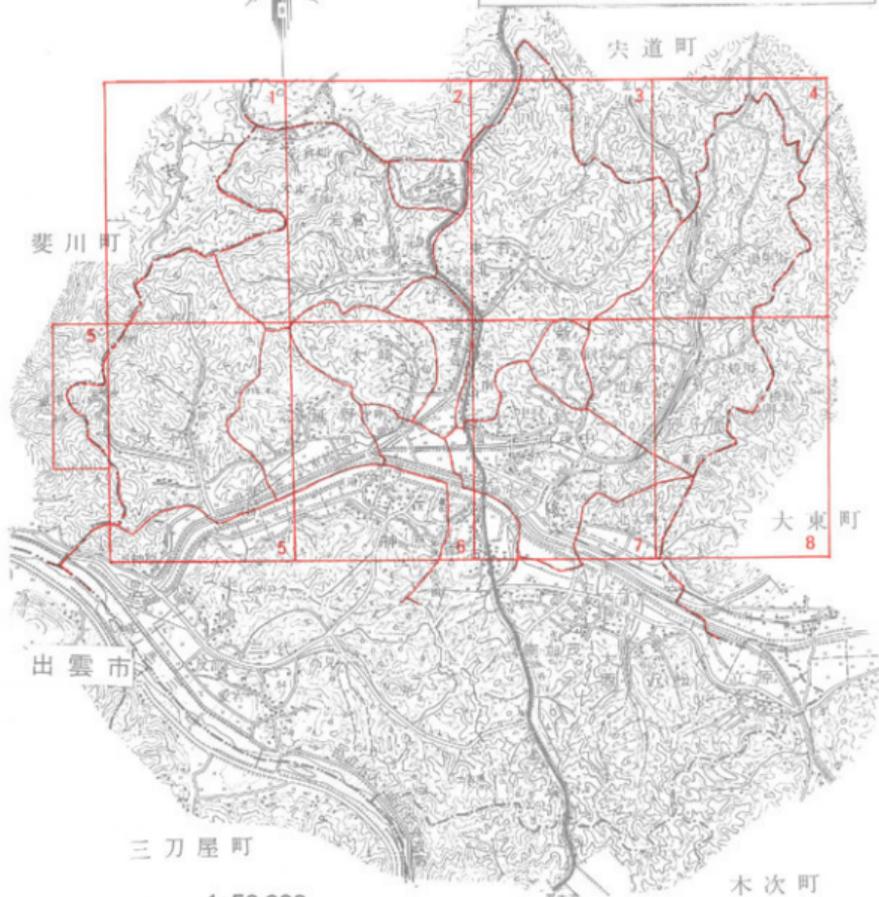
遺 跡 の 集 計

| 大字 | 散布地 | 古墳・横穴 | 城砦 | 古墓 | 生産遺跡 | 寺社跡 | その他 | 合計 |
|-----|-----|-------|------|----|------|-----|------|-------|
| 大 竹 | | 4(3) | 1(1) | 1 | | 1 | | 7(4) |
| 延 野 | | | | 2 | 1 | | 1 | 4 |
| 大 崎 | | 2(1) | | | | 1 | | 3(1) |
| 猪 尾 | | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | | 6 |
| 岩 倉 | | 1(1) | 2(2) | 1 | | 2 | 1 | 7(3) |
| 東 谷 | | 1(1) | 1 | 2 | 1 | | 1 | 6(1) |
| 新 宮 | | | | | | | 1(1) | 1(1) |
| 砂子原 | | | | | | | | |
| 加茂中 | | 3(3) | 3(1) | 3 | | 2 | | 11(4) |
| 計 | | 12(9) | 9(4) | 10 | 3 | 7 | 4(1) | 45(4) |

補遺

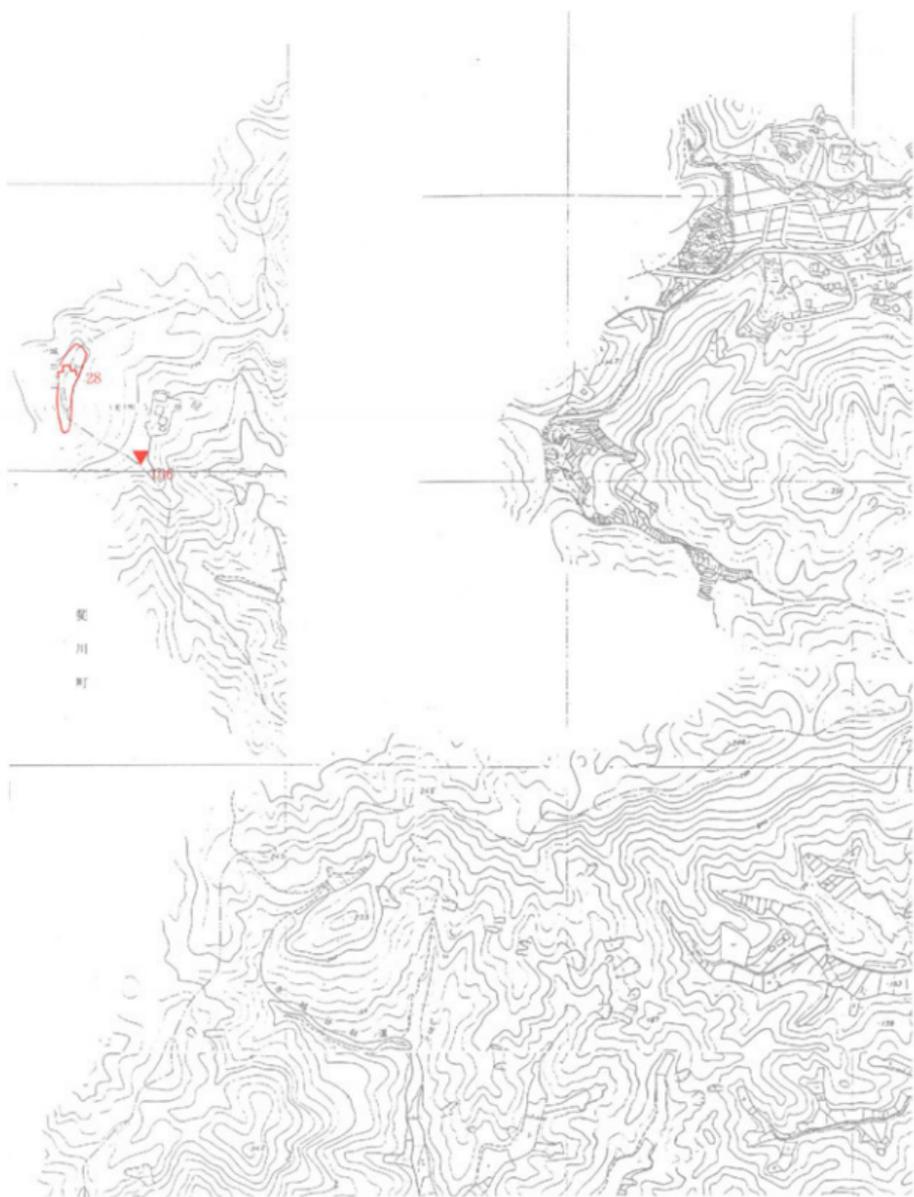
| | | | | | | | |
|-----|---|--|--|---|--|---|---|
| 神 原 | 1 | | | | | 2 | 3 |
| 宇 治 | | | | 1 | | | 1 |
| 南加茂 | | | | 1 | | | 1 |

加茂町全図



1:50,000





分布圖(1)



分布图 (2)



分布图(3)

筑波町



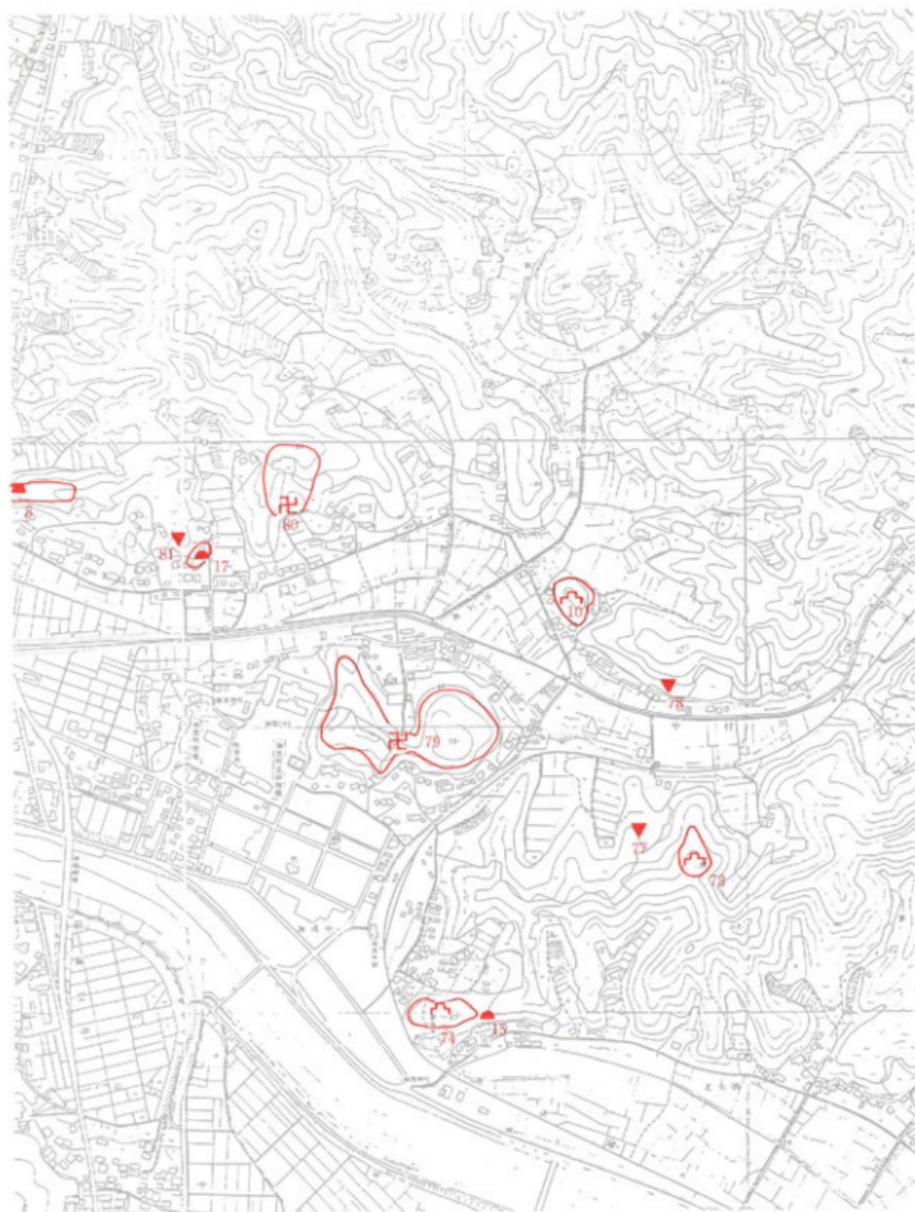
分布图(4)



分布图(5)



分布图(6)



分布圖(7)

遺 跡 一 覧 表

大 字 大 竹

| 遺跡番号 | 名 称 | 種 別 | 所在地(字) | 現 況 | 概 要 | 文 献 |
|------|-----------|-----|------------|--------|---|----------|
| 1 | 玉尾谷尻横穴群 | 横 穴 | 玉尾尻 | 宅地 | 丘陵南斜面に7穴以上あり 人骨・須恵器Ⅳ期・土師器出土 1穴玄室残 | 2、3 7 |
| 2 | 猫 里 古 墳 | 古 墳 | 猫 里 | 山林 | 詳細不明 消滅 横穴か | 2、3、7 |
| 7 | 穴ノ前横穴群 | 横 穴 | 穴ノ前・ 堤廻 | 畑 他 | 丘陵南面 13穴以上あったが消滅 2穴は落盤埋没 刀・鉄・須恵器Ⅳ期 人骨等出土 | 2、3、7 |
| 105 | 垣ノ内横穴群 | 横 穴 | 垣ノ内 | 宅地 | 丘陵南面 数穴あったが消滅 須恵器Ⅲ～Ⅳ期耳環出土 | |
| 28 | 城 平 山 城 跡 | 城 跡 | 寺谷・ 妻川町 | 山林 | 主城は妻川町に属すがその出張り墓が 光明寺後背稜上にある 中～小6段・堀切り・土塁あり | 9 |
| 106 | 光明寺の古墓 | 古 墓 | 寺谷 | 墓 地 | 城平山城主墓西氏に關わる古墓と伝え る五輪塔・室陵印塔墓 | |
| 104 | 大田山崎寺院跡 | 寺院跡 | 大田山崎 | 畑 | 寺跡と伝える堂礎の石あり 近くに五 輪塔片埋没とのこと | |

大 字 延 野

| | | | | | | |
|-----|----------|------|------|----------|------------------------------------|-----|
| 102 | 奥ノ上の五輪塔 | 古 墓 | 奥ノ上 | 山林 | 五輪塔片集積 旧寺院関係の墓地群か | |
| 103 | 神宮寺上の五輪塔 | 古 墓 | 神宮寺上 | 墓 地 | 五輪塔片散在 旧大正寺、神宮寺関係 か 付近に小堂あり | |
| 100 | 鉄クソ鉾跡 | 生産遺跡 | 鉄クソ | 畑・ 水田 | 延野本谷の奥 南東に開くイコ地形 (小谷)の南縁斜面に鉄滓散布 | |
| 101 | 布須社和魂出土地 | 祭祀遺跡 | 宮ノ谷 | 雑 | 神社下方の渡符池より和魂(室町) 金鋼刀装片出土 | 2、3 |

大 字 大 崎

| | | | | | | |
|----|-----------|-----|----|-----------|---------------------------------------|--|
| 14 | 板 屋 横 穴 群 | 横 穴 | 板屋 | 宅地 | 谷に突出する丘陵南面に2穴以上 工事で見え消滅 須恵片出土 | |
| 98 | 寺 廻 横 穴 群 | 横 穴 | 寺廻 | 山林 墓 地 | 丘陵南斜面5穴以上あったと思われる が2穴埋没 1穴玄室残存 礎塚か | |
| 97 | 寺 廻 寺 院 跡 | 寺院跡 | 寺廻 | 山林 | 上記横穴群の上方後上の削平地 “今用寺。”と呼称している | |

大 字 猪 尾

| | | | | | | |
|----|-----------|-----|------|----|---|---------|
| 94 | 三 室 横 穴 群 | 横 穴 | 三室 | 山林 | 丘陵南西斜面に落ち込みあり 横穴か | |
| 92 | 奥 垣 内 畚 跡 | 城 跡 | 奥垣内 | 山林 | 依い丘陵頂部の削平地6段 切岸あり 30×15mの範囲 猪尾城跡からの跡 | |
| 96 | 猪 尾 城 跡 | 城 跡 | 畑妻・他 | 山林 | 丘陵頂部を宇部とし懸山輪等10部 堀切り5 200×30m 比高10m | 2、3、6、8 |

| | | | | | | |
|----|-------|------|------|----|---|---|
| 95 | 鹿本古墓群 | 古墓 | クラモト | 山林 | 丘陵端の墓地等に五輪塔片多数集積 | |
| 93 | 三室殿治跡 | 生産遺跡 | 三室 | 畑 | 東に開くイゴ地形 30×20mに鉄滓が散布していたとのこと | |
| 91 | 猪尾社跡 | 神社跡 | 鉄穴地 | 山林 | 丘陵端に近い中腹部の削平地 25×18m 石段・手水鉢・礎石・陣文石・板刻武人像碑あり 鎌倉時代か | 2 |

大字 岩倉

| | | | | | | |
|-----|----------|-----|------|------|--|----------|
| 16 | 平田横穴群 | 横穴 | 平田 | 山林 | 谷間に突出した丘陵端 玄室に箱式棺を設置 消滅 昭和47年調査 | 11 12 |
| 25 | 岩倉大谷山城跡 | 城砦 | 大谷 | 山林 | 西に張り出す岩尾根上に3段の削平地(曲輪)あり 昭和57年調査後消滅 土師器片 古銭 | 13 |
| 27 | 伊志見谷砦跡 | 城砦 | 伊志見谷 | 山林 | 丘陵頂部 水道貯水池で半ば欠損 下方機線上に曲輪4あり | |
| 88 | 結宗寺の宝篋印塔 | 古墓 | 結宗寺 | 墓地 | 町道沿い地蔵堂の庭面に宝篋印塔1基 | |
| 89 | 浄久寺跡 | 寺院跡 | 寺中 | 山林 | 南西に開くイゴ地形 25×20m他3段の削平地あり 礎石等不明 付近に元文銘無縫塔墓あり | |
| 90 | 家守神社 | 神社跡 | 家ノ森 | 畑(雑) | 舌状台地上に小祠あり | 5 |
| 87 | 経塚 | 経塚 | 経塚 | 道・畑 | 道端に権現あり 地名のみ残る | |
| 111 | 坊ノ奥経塚 | 経塚 | 坊ノ奥 | 雑 | 丘陵端の石経塚 約5×5m 高さ0.8mの川原石のマウンド 頂部に石塔片 | |

大字 東谷

| | | | | | | |
|----|---------|------|-----|----|--|--|
| 29 | 東谷谷横穴 | 横穴 | 壳ノ前 | 山林 | 支丘陵端南斜面の崖に落ち込みあり 須恵壺出土 | |
| 82 | 蛇喰谷砦跡 | 城砦 | 蛇喰谷 | 山林 | 谷奥の山腹頂部にあり 護国寺に沿って中一削平地4面 権現碑を祀る | |
| 84 | 正福寺の古石塔 | 古墓 | 廻 | 墓地 | 寺跡の墓地内に五輪塔・宝篋印塔あり | |
| 85 | 鍋谷の五輪塔 | 古墓 | 鍋谷 | 山林 | 八幡宮の南に對峙する丘陵端斜面に五輪塔片多数集積 | |
| 83 | 滝谷尻鉦跡 | 生産遺跡 | 広畑 | 荒地 | 支谷(滝谷)入口部の南面丘麓にあり かつて畑中に竪状土上面 鉄滓散布 | |
| 86 | 松賀和鏡出土地 | 鏡出土地 | 松賀 | 山林 | 猪尾元宮地の東に對峙する丘陵端にあり 荒神を祀る付近から偶然出土 付近に地名「荒神谷」あり 室町期の和鏡 | |

大字 砂子原

| | | | | | | |
|----|-------|------|-----|----|--|--|
| 26 | 大蛇子遺跡 | 祭祀遺跡 | 大蛇子 | 山林 | 高く南に張り出す丘陵端 マウンド上より石鉢・和鏡・古銭・瓦器等出土 室町期の修法壇か | |
|----|-------|------|-----|----|--|--|

大字 加茂 中

| | | | | | | |
|----|----------|-----|----------|----------|---|----------|
| 8 | 星野横穴群 | 横穴 | 星野 | 山林 | 関口古く著名 多数穴あり 大正頃工事で消滅 落盤穴あるもの1穴残存 マウンドイあり 星誕生伝説で地名起原となった 詳細不明 | 1、2、3、5、 |
| 15 | 立石横穴群 | 横穴 | 立石 | 崖 | 加茂平野に面する丘陵南斜面の上方 工事で発見消滅 横板・長頸壺・蓋耳等Ⅳ期末 | |
| 17 | 叶廻横穴群 | 横穴 | 叶廻 | 麓 | 丘陵端の南東斜面 上砂採掘で須恵器玉・金銅製品破片等出土 Ⅲ～Ⅳ期消滅 未発見もあるか | |
| 10 | 小丸子山城跡 | 城砦 | 古城 | 山林 | 独立小丘陵上30×12mの主郭と小郭5 虎口は南にある 丘城 | 2、3 |
| 73 | 尾添上巻跡 | 城砦 | 安早稲 | 山林 | 高麻城跡から西800mの尾根続き 加茂中に対する丘端 45×10mの削平地と土塁・小郭2・物見砦 | |
| 74 | 大首巻跡 | 城砦 | 大首 | 山林 | 慶用寺裏墓地のある丘陵130×40m 比高25mの主郭 西4段東2段の曲輪あり 後世の改変多大 | |
| 77 | 尾添の宝篋印塔 | 古墓 | 尾添 | 畑 | 尾添巻下方の畑地に竝入双塔あり | |
| 78 | 中村古城の五輪塔 | 古墓 | 古城 | 墓地 | 小丸子山城跡に続く南丘陵 現墓地に5基分以上集積 | |
| 81 | 金丸五輪塔 | 古墓 | 金丸 | 墓地 | 現行墓地内に5基分以上集積 | |
| 79 | 宝蔵寺跡 | 寺院跡 | 宝蔵寺・経蔵・他 | 山林 公園 | 加茂中心部へ張り出す低丘陵上にあったもの 公園化により大きく改変し旧状不明 関係地名多し | |
| 80 | 蔵福寺跡 | 寺院跡 | 蔵福寺 | 畑 | 丘陵南側中腹の小イゴ地形 地名伝承あり 旧状破壊 | |

補遺

大字 神原

| | | | | | | |
|-----|----------|------|-----|----|----------------------------|---|
| 107 | 土器廻古墳 | 古墳 | 土器廻 | 山林 | 土器廻横穴群(消滅)の上方後頂にマウンドあり 未掘 | |
| 109 | 相保廻和鏡出土地 | 瓦出土地 | 相保廻 | 麓 | 相保廻谷口西側低丘陵端 小堂のある付近より出土と伝う | 2 |
| 108 | 深田和鏡出土地 | 瓦出土地 | 深田 | 墓地 | 舌状低丘陵端付近から出土と伝う | |

大字 宇治

| | | | | | | |
|----|---------|----|-----|----|-------------------------------|--|
| 99 | 才明寺の五輪塔 | 古墓 | 才明寺 | 墓地 | 丘陵端の崖上の小テラスにあり 才明寺元地と伝える小堂の近く | |
|----|---------|----|-----|----|-------------------------------|--|

大字南加茂

| | | | | | |
|-----|--------|-----|----|----|-----------------------------------|
| 110 | 高畦の五輪塔 | 古 墓 | 高畦 | 山林 | 丘陵端中腹～麓部 大字宇治との境付近 農道工事により分断されている |
|-----|--------|-----|----|----|-----------------------------------|

文 献

- | | | | |
|------------------|-------|----------------------|-------|
| 1)野津左馬之助『大原郡誌』 | 昭和11年 | 8)『出雲国積古知今岡説』 | |
| 2)中林季高『加茂町史考』 | 昭和31年 | 9)『日本城郭大系14』新人物往来社 | 昭和55年 |
| 3)編集委員会『加茂町誌』 | 昭和59年 | 10)『雲陽平実記』復刻本 | |
| 4)加藤義成『出雲国風土記参究』 | 昭和56年 | 11)『島根県埋蔵文化財調査報告V集』 | 昭和49年 |
| 5)『雲陽誌』雄山閣復刻本 | | 12)『島根県大百科事典』山陰中央新報社 | 昭和57年 |
| 6)『皇国地誌』 | | 13)『島根県埋蔵文化財調査報告X集』 | 昭和58年 |
| 7)加茂町『加茂町誌』 | 昭和31年 | | |

I. 遺跡の分布状況

加茂町は東西6.4km南北6.8kmのほぼ四角形の町域であり、この中央を南北に陰陽を結ぶ国道54号線が走り、東から西へ赤川が流れて斐伊川に流入する。

本年度調査の対象区域はこの赤川から北で、古代～中世の福田庄であり、平安時代には京都賀茂神社が勧請されて同社の荘園となり、現今の町名はこれに由来している。

中世には高麻城を拠点に鞍掛氏、のち神中沢氏、北からは一時は矢道氏の領するところとなるなどその入組みは変動し複雑のようだ。

1. 大字大竹地区

赤川最下流部に相当する谷地形の地区で、古刹光明寺の麓にあたる。

赤川に向かって張り出す各丘端には、玉尾谷尻(1) 猫里(2) 穴ノ前(7) 坂ノ内(105)の各横穴群(図1)がそれぞれ営まれていて、対岸の神原地区の横穴(古墳時代末から奈良時代にかけて)との関連も思われ、古代の大きな集落があったことが窺われる。なおこれらは赤川護岸工事の土砂採掘によって発見破壊され、ほとんど現存しない。

旧往還沿いの宇前大竹付近ではかつて室町期の和境の出土地があり、近くには寺堂跡があるなど中世の遺跡も認められる。谷奥には「鉦谷」地名と金屋子神祠があり、製鉄跡を示唆しているが位置は特定できなかった。

2. 大字延野地区

延野地区には古代の遺跡は発見されていない。風土記にみえる布須神社には中古以来京都より勧請した軋社が合祀されており、福田庄内であったことがわかる。付近には神宮寺、大正寺等の寺院名もみられるが、その遺構は明瞭ではない。しかし五輪塔墓群が密に分布する。布須神社の池からは室町期の和鏡が出土しており同社に所蔵されている。

谷奥には字鉄クソの地名と鉄滓の散布が認められ、たたら製鉄の跡と判明した。時代はかなり古く規模はあまり大きくないようだ。

3 大字大崎・猪尾地区及び字才明寺地区

字才明寺の丘陵近く、かつて赤川改修の土砂の際土器が出土したと伝えられているが、現物もなく明確ではない。或は横穴が存在したのかも思われる。

大崎字寺廻の今用寺跡(97)と伝える丘陵の南斜面には5穴以上の寺廻横穴群(98)があり、今も3穴は位置が確認される。板屋横穴群(14)は消滅した。

大崎・猪尾の境にあたる低丘陵上宇垣妻には猪尾城跡(96)が、字奥垣内には砦跡(92)がある。猪尾城跡の南麓で猪尾川と中村川との間の三角洲状の位置に字沖土井の地名があり、中世穴道氏の居館と伝えている。また城跡の東麓宇三室には鍛冶鉄滓の散布が認められる。

大字宇治字才明寺の地名は中世の寺院名によるものであるが、鎌倉期最明寺殿に由来するともいわれている。また大崎地内には多くの寺社名が遺されており、その多くはやはり鎌倉期にまで遡る起原という。しかし遺構は明瞭なものが少ない。

猪尾神社は近年東谷八幡宮に合祀されたが、その元宮地(91)には鎌倉期年銘や人物像を線刻した石碑が残存しており、希有な資料といえよう。

また猪尾地内の地名についてみると、中世主要人の居住を示すものが多い傾向があり、地頭穴道氏の拠点であったとも思われる。

4. 大字岩倉地区

この地区は本郷区域と畑区域とに高い山稜によって分かれている。

本郷区域の古代遺跡はわずかに平田横穴(16)が知られているのみで顕著ではない。中世の寺院跡(浄久寺跡89)や坊ノ奥経塚(111)があり、またかつては大谷山丘陵端には3段の削平地からなる簡易な砦跡があったが、土砂採掘で消滅した。これらは概ね隣接の斐川町へ通ずる田路に沿って点在する。

畑区域では堂宇近くの宝篋印塔と付近に地名経塚が認められる。集落の始まりは中世末頃であろうか。

5. 大字東谷地区

猪尾城跡から北東へ穴道町金山要害山城跡へ通ずる中世の往還に沿う地区である。谷入口付近に寺社があり、西寄り荒神谷の近く字松賀の荒神を祀る付近からは和鏡(室町期)が出土して祭祀の跡と思われる。町境に近く字蛇喰谷の稜上には中～小4段から成る砦跡があり、権根を祀っている。またこのあたりの稜線上にはいずれにも堀割りと築立ての手法による山路が延々と続いており、中世の間道と思われる。

地区のほぼ中央の低丘陵南面字禿ノ前ではかつて須恵器の壺が出土しており、その奥には横穴が埋没しているものと思われる。またこの付近には未知の横穴等も存在する可能性がある。

支谷である滝谷の入口付近には鉄滓の散布がみられ、切断された畑がたたら跡であり、一部残存していると思われる。

このほか近年造成された中山住宅団地の西側稜上には、簡易な伊志見谷砦跡(27)があり岩倉本郷から北へ穴道、斐川町方面への通路に備えている。また国道54号線を挟んで東側一帯に字城ヶ谷の地名であるが、明瞭な城砦跡は発見できなかった。

6. 大字砂子原・新宮地区

鉄道に沿って穴道町に接する北東に長い谷間のやや広い地区であるが、遺跡の密度は粗である。しかし主要な文化財が存在するところである。

集落中心部にある富貴寺の薬師如来は県指定の文化財であり、南端にあたる高麻城跡は大字大西・加茂中及び大東町と境を接して主郭部がある。高麻城は中世尾子十旗の一つに挙げられて出雲国内の主要城郭で、大原郡西区域支配の拠点であったことは過年度既に報告したところである。

やや奥まった字大蛇子の丘陵端には、中世の祭祀跡があり、和鏡・石鉢・古銭が出土している。

このほか“城ノ奥”“城ノ廻”“蛇バミ(城番の説り)”。など中世の城砦を示す地名があるが明瞭な遺構は見出せなかった。

7. 大字加茂中地区

加茂町の中心部であり、古代以降福田庄の中心地でもあったところで、地名にみるかぎり数多くの寺社・居住区等を示唆するものがある。また高麻城の大手にもあたり、その出張り器もみられた。

古代の遺跡としては、先ず大字東谷との界の丘陵にある星野横穴群(8)が挙げられる。

かつて丘腹には蜂の巣のように横穴が並んでいたとのことであるが、国道開通によって大部分が削り去られて消滅した。この横穴は古来織女星誕生伝説があり、これによって今日の地名・集落名となったものである。1穴埋没して残存。未発見もまだありそうだ。これに続く中村地内には叶廻横穴群があり採土によって消滅した。また赤川に面して町並みの上手には立石横穴群があり、工事によって発見消滅した。これらはいずれも古墳時代後期から奈良時代に営まれたものである。

役場の後背部加茂神社は平安時代に勧請され今日に至っているもので、境内社も多く、またこの付近からは度々土器等が出土したとも伝えられているが現存せず、詳細は不明である。

町並の北東に公園となっている独立低丘陵は宝蔵寺跡と伝えられ、経蔵などの地名も付随しており大きい寺院跡である。特にその西北端には堀切りがあり、砦のような構成のみられるところであるが、大半は小学校敷地として大きく削り去られて全容は知ることができない。また公園化のため改変された箇所も多い。

中村の丘陵中腹には蔵福寺跡と伝える所があり、後背稜上には墓地在り。

城砦についてみると、中村地内に張り出す低丘陵端の字古城に小丸子山城跡(10)があり、高麻城主の臣内匠氏の拠ったところとされている。細長い主郭と狭小な腰曲輪5の縄張り規模は小さい。加茂中では町の上手で慶用寺の裏山の小丘陵は現在では墓地群となっているが、これは高麻城跡から延びる丘陵の先端の位置でもあり、その構成からして支城であったと思われる。またその中途にあたる字尾添には中村川に面した支丘陵端に物見砦が設けてある。

そしてこれら寺院跡や砦跡の近隣には五輪塔や宝篋印塔の古墳が点在している。

II. 主な遺跡

赤川以北地域において、縄文～弥生時代の遺跡は今のところ明らかになっていない。しかし隣接各町の状況からすると存在の可能性は高く、近い将来発見されるものと思われる。

1. 古墳時代

古墳時代の前・中期の遺跡は今のところ明らかでない。後期後半から奈良時代にかけてこの地域では横穴墓が盛行する。特に大竹地区と加茂中地区に多く、赤川に面した丘陵端に著しい。これはそのあたりの肥沃地に集落が展開したことを物語るものであるが、この居住を証する遺跡は未発見である。

1) 玉尾谷尻・穴ノ前・垣ノ内横穴群

それぞれ赤川に向かって張り出す低丘陵先端の南斜面に営まれたもので、玉尾谷尻7穴以上、穴ノ前13穴以上、垣ノ内数穴があったとされている。

いずれも赤川堤防工事の用上採掘で発見消滅した。出土した遺物も多くは散逸したが、現在判明するもの(図1)についてみると、大部分は須恵器で蓋環のほか提瓶・高坏・埴などである。玉尾谷尻では赤色に塗った土師器の高坏があった。その他の遺物として、玉尾谷尻では刃渡り5.5cmの幅広く短い刀子があり、垣ノ内では須恵器の甕2や金メッキの残る耳環1対がある。わずかに残った玄室からすると、これらの横穴は断面三角形で妻入りであり、斐伊川中〜下流域に普通にみられる様式である。垣ノ内横穴出土土器のうち蓋環1組と蓋1が須恵器編年のⅢ期であるほかはすべてⅣ期に入るものであることから、主に奈良時代の造営と考えられる。

また以上の遺物は対岸である神原地区の土器廻・菅代・沢平各横穴群と共通するものであることから、赤川を挟んで南北岸の神原地区と大竹地区には同時に集落が存在していたものと思われる。

2) 寺廻横穴群

大崎・寺廻の丘陵中ほどかつて寺があったとされる削平地の南側丘腹で、現在墓地となっている付近に合計5穴以上の横穴が認められた。

墓参道の崖面には玄室の奥部が残っており、板状の石を敷いているようだ。その他はかつて洞状となっていたところ2か所、つぶれて凹入した崖となったもの2か所、墓地造成で消滅したもの1か所以上あり、このあたりからは時折須恵器片が採取されるとのことである。上記した残存玄室の中からつまみの付く蓋の破片を採取、また墓地の一角で坏身の破片を採取した。いずれもⅣ期にあたるもので、奈良時代以降の横穴群とみられる。

3) 星野横穴群

加茂中瀬祖地へ東から張り出す低陵突端部で、国道54号線で先端が削り取られている。

この国道敷設工事までは横穴が丘腹に蜂巣状に開口していたと伝えられている。後線上には直径5〜7mほどのマウンド4基認められたが、マウンドを表覆とする横穴が未だ下方に埋没していると思われる。或は独立した小古墳であるのかもしれない。また丘陵上に大きな陥没穴があり、下方の横穴玄室が遺れているものが1基あった。ここの出土遺物は残っていない。

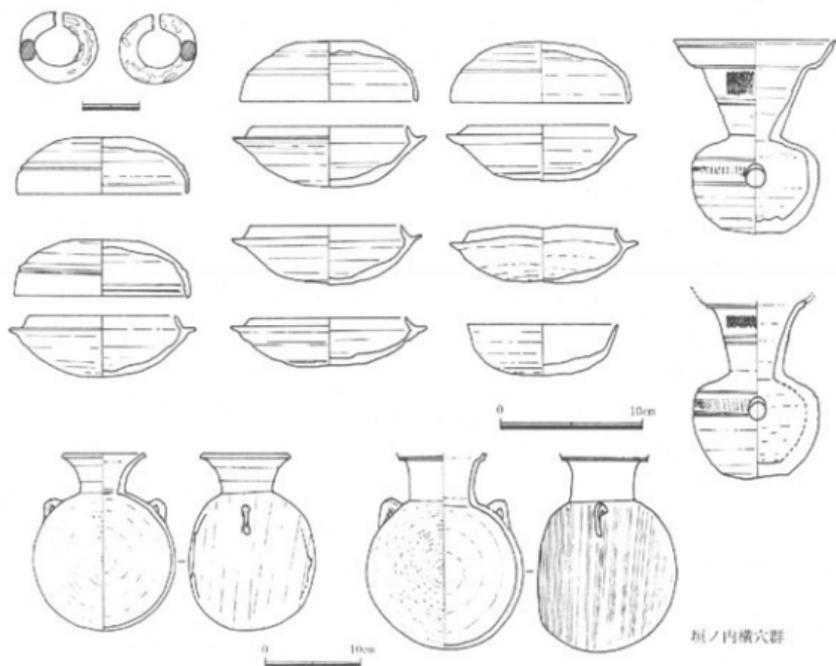
この横穴は古くから開口していたもので、江戸時代中期の文献「雲陽誌」には次のように記述している。

「星の宮……石の宝殿なり、老樹多し、加茂村と東谷村との境に洞二ヶ所あり、三四間四



玉尾谷尻横穴群

穴ノ前横穴群



坑ノ内横穴群

図1 遺物図(1)

方深さ五六尺計、土人語て云七月七日の夜織女此洞より出現したまふと俗説誦し。

これによると横穴の中には石棺が置かれてあり、ここから織女星が誕生したとする伝説があって、地名「星野」の由来ともなっていることが判る。

4) 平田横穴群

大字岩倉の谷間に突出する丘陵の突端にあったもので、昭和47年水害の岸崩れで発見されたもの。それ以前にも付近に数穴あったと言われる。緊急調査報告によると、高さの低い断面三角形妻入様式の横穴で支室内には箱式石棺が置かれ、出土した蓋環3組はⅢ期のもので6世紀代である。箱式石棺を内蔵する横穴は、その後雲南地方でも点々と発見されているが数は少ない。

5) 叶廻横穴群

中村川に面した支丘陵の突端にあった。数度にわたる土砂採掘で発見消滅した。玉類や土器等が出土したが、残されているものは須恵坏身(Ⅳ期)1、と大妻口縁部片で櫛描波文を3段に巡らせるもの、及び金銅製品の破片のみである。金銅製品は直径25cmほどの蓋状のもので、外縁をわずかに折り上げトンボ玉紋様の浮文を巡らせた金メッキの品であるが、用途は明らかでない。



図2 遺物図(2)

6) その他の出土土器

このほか加茂小学校に所蔵している土器に大字神原土器類出土の直口壺1と、同じく松ノ木出土の提瓶は把手が貼付けボタン状となったものがあり、出土地不明の埴もある。いずれも奈良時代に属するものである。

大字東谷・谷の丘腹崖面から発見された須恵大壺は、ほぼ直立する口縁で、胴部は刻線状の甲目がカキ目線で段区画されて文様化したものである。出土状況からして横穴の前庭部付近からとみられ横穴の存在が予知される。

延野字奥ノ上の竹林には古墓があって五輪塔石材が山積みしてあった。この石塔材の間に須恵器片が混入していた。接合復元すると胴径23cm器高28cm以上の壺形となる。胴上部には注口孔があり、口縁は強く外反して甕の姿となるが、それにはは類例のない大きさとなる。製作は須恵器Ⅲ～Ⅳ期の手法であるがはたして使途は何であろうか。再考を要するものである。

2. 中世城砦

城砦の分布は大きく2群に分けられる。国道54号線沿い猪尾地区と、昨年度報告した高麻城に関与するとみられる加茂中地区である。このほか猪尾地区と矢道町所在金山要害山を結ぶ東谷地区の稜線上を走る古道が認められる。

1) 猪尾城跡・奥垣内砦跡

隆法寺裏山にあたり、頂部は比高40mで南北に長い稜線上約150mにわたって縄張りしなした城跡である。大崎地区と猪尾地区の境にあたる。約40mの間隔で2か所の頂点を削平した主・副郭を基に一段低い腰曲輪5がこれを囲む。これから派生する支丘陵は4方のいずれもその基部で堀切りによって切断され、特に南端のものは深淺2段の堀切りとし

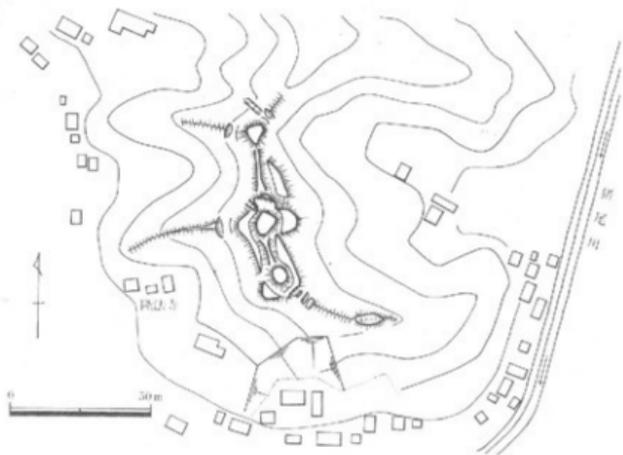


図3 猪尾城跡

ている。また北の端の堀切りからは、西側の大字大崎の谷間へ向って堅堀りを落としている。

主郭北側の腰曲輪は土塁で囲み、その西脇を主郭から短く堅堀りが認められる。南側2重堀切りを経て約50mの丘陵先端には物見と思われる別郭がある。摺手は東麓の猪尾地内であろうか。なおこの下方にはかつて三室社が祀られていた。

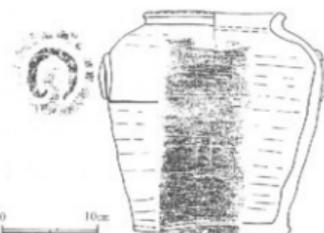


図4 猪尾城跡出土（中世陶器）

さらにこの南方にあたる耕地に沖土井の地名があり、ここに大崎・猪尾・東谷・岩倉4村を領した穴道氏の居館があったと伝え、これの城とされている。

猪尾城跡から尾根伝い北へ500mの奥垣内の稜線上には4段から成る砦跡があり、大崎のほぼ全域を南方眼下にしている、猪尾城の一連とみられる。比高は約50mである。

2) 大谷山城跡

岩倉本郷の谷奥部に突出する丘陵端部で、裾の旧路は北へ山越して斐川町へ、南は赤川沿い大字大崎へと連なる交点にあたる。稜線上最頂部に狭長な第1郭があり、東へ下りながら第2～第4郭と続き、最先端に小さな第5郭があった。この大部分は昭和57年発掘調査ののち消滅した。発掘調査で古銭と土師質土器が出土し、16世紀後半の出域的なものとされた。文献等から穴道氏に由来する遺構とみられている。

3) 小丸子山城跡

中村川に沿った丘陵西端で、宇古城にある小城跡。丘陵端約70mを大きな堀切りで切断し独立させ、頂部に30×12mほどの広い郭を設けて主郭とし、東に1段低い小郭と北及び西に狭い帯曲輪2を巡らせた縄張りである。立地や縄張りからして中世末頃の土豪の拠った枝城的なものである。高麻城主鞍掛氏の臣内垣氏の城であり、居館も近くにあったとの伝承に対応する。

4) 尾添上砦跡

高麻城跡から西に張り出す長い尾根先端近く、北方中村に対して派生する支尾根上に設けた物見砦である。長さ40m以上幅約10mの稜上を削平した郭で、先端北方に面して高い土塁をし字形に配置し、その先に小三角形曲輪を備えた簡素な構成である。南側は主尾根上を通路が走り、高麻城跡に接続している。比高50mで、中村砂子原方面への展望に優れている。

5) 加茂中大首砦跡

高麻城跡から西へ加茂中中心部へ向って長く延びる丘陵の最先端に位置し、比高約25mで高くはないが、広く赤川下流域連担地の展望に優れている。立地する丘陵先端部は括れ

部があるため独立丘状をなしており、約130×40mの範囲で南麓には慶用寺があり、この寺域も含むとも思われる。丘陵はほとんど現行の墓地となっていて地形の改変もあろうが、頂部の狭い郭とそれを三方（東を除く）を開む広い郭が主であり、南～南西へ階段状に下る曲輪が続く。下方については鉄道敷設によって大きく削られていて不明である。

高麻城を根城とする有力な出張り砦と思われる。

6) 城平山城跡

斐川町との境である光明寺後背の急峻な山稜頂部にある。標高318m比高300m近い稜線上に、南北約100mにわたって狭長な郭が3面、南に下りながら小郭が3段あり、西側には通路状の帯曲輪が沿い、東側には全城を通して土塁が築かれている。稜線上南端と郭の間の2か所に堀切りがあり、出張り砦的な性格である。これから稜線上の路を南から西へと約200m辿ると本城である斐川町所在の城平山城跡に至る。高山頂部を占有する南北朝期の特徴が著しい城郭といえよう。なお城平城主葛西氏と伝える墓地墓塔は光明寺に所在する。

3. 古墓・寺社跡

1) 光明寺の古墓

光明寺城の南端わずかに突出する尾根状（大塚山荘のところ）、大榭樹の下に五輪塔や宝篋印塔が多数並ぶ古墓がある。やや大形のものも含む石塔群で、いずれも凝灰岩製・五輪塔宝珠はやや円筒状をなして新しい感じであるが、宝篋印塔笠部は省階式ながら隅曲突起に忍冬文を刻んで退化していない。塔身には梵字の四仏を刻むが風輪はない。ややアンバランスながら古い要素が多くみられるものであり、大まかに室町期と思われる。

本来の位置はもう少し寺寄りにあったもので、城平山城主葛西氏一族の墓域であると伝えられている。

2) 神宮寺上の五輪塔・奥ノ上の五輪塔

大字堀野の中心部にあり、南面する麓部には古墓や寺院名が密である。神宮寺の小堂の裏手にある墓地には、五輪塔石材が10基分以上集積してある。図示例は笠が薄く宝珠は円筒状に近いものであるが、他に古態を示すものもある。

これより北東約100mの丘陵突端にも竹林中の削平段にやはり凝灰岩の五輪塔石材が集積してあり、奥ノ上の五輪塔と名付けた。笠部の軒端は直立気味で、宝珠も整って古態を示している。地輪はわずかに影らみがあるのは他例と異なる。なおこの奥ノ上の五輪塔の集積された石材の間に須恵器の特殊壺の破片が混っていた。おそらく付近から出土したものであろうが、かつては古墳などがあつた地帯ではなかろうか。

3) 蔵本の古墓群

猪尾城跡のある丘陵の突端斜面に五輪塔石材を多数集積したところがある。付近には埋没しているものも多いと思われ、中世の古墓群である。まとまった塔姿とはならないが、宝珠は概ね古態である。笠と水輪及び基台部は極く薄いものと極く厚いものの2種がある。すべてキマナ石を含む凝灰岩製である。位置からしてこの古墓群は猪尾城との関係を思わせる。

4) 才明寺の五輪塔

丘陵の南端中腹で集落道路の直上の小段に古墓がある。隣接地は近世までの寺堂跡地と伝えているが、上砂採掘で改変が大きく旧状は不明である。堂は現存している。ここの五

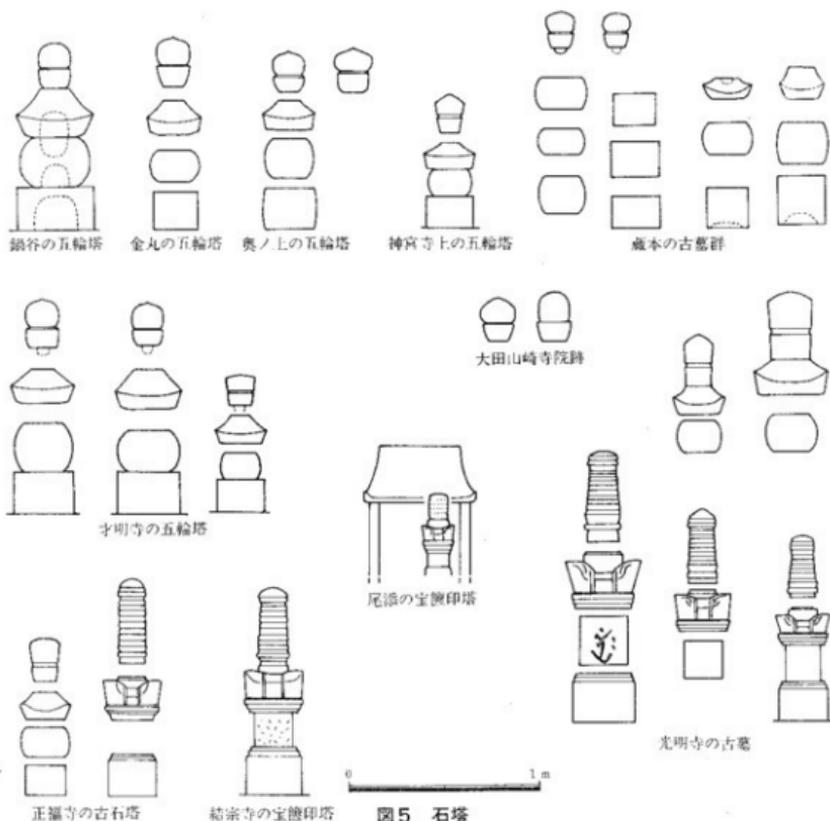


図5 石塔

輪塔についてみると、宝珠が円筒形のものやや大形で請花部（風輪部分）がやや丈高のものがある。また笠の軒反りがやや強い。これから中世末というより近世初頭とみるのがよいようだ。

5) 正福寺の古石塔

寺の南へ少しばかりの丘陵にある寺墓地内にある五輪塔と宝篋印塔である。五輪塔笠の軒先はかなり強く傾斜し、宝珠は円筒状をなしている。宝篋印塔の相輪部はかなり省略して線刻化され、笠部も省階台式化されている。いずれも新しい段階のものとみられて江戸時代に入るものであろう。

6) 金丸の五輪塔

東谷八幡宮の向い丘陵の中腹にあり、やや大形の五輪塔数基分を含むキマチ石製五輪塔群で、石材が集積されている。製作は中世のものとかかなり相異なる点がみられる。やや大形の石塔についてみると、宝珠は円筒形からの削り出しで請花は高く笠は厚いが大きく軒反りし、下面には挟り込みを造る。水輪の球は丈高で上下から大きく挟り込む。地輪も下底からの挟りが極めて大きい。このように裏からの挟り込みが特別に大きく造られているのは、何かを封入埋納するためのものではなかろうか。このような様式の五輪塔はこれまで町内では知られていない。石塔の形姿からすると近世もやや時代の下るものと思われ類例は少ない。

7) 結宗寺の宝篋印塔

岩谷畑の道路直上で、大山神社跡地の続地にあたる。山寄りの民家のあたりは地名が結宗寺で、かつてカワラケや石英質球状のものが出土したことがあるという。宝篋印塔は小堂の傍に2基ある。やや大形のものについてみると、軒の薄い省階式で相輪も線刻で表したものであり、近世に入る頃のものであろう。塔身は後世の補充品である。

8) 尾添の宝篋印塔

中村上の字尾添には丘陵上に竈があり、その下の畑地のほとりの基地の隣りに倉入宝篋印塔がある。由来等の伝承はない。すべて軟質の凝灰岩製で、倉は軒幅60cm高さ約70cmあり、中に宝篋印塔が一石造りのものと、4個の石材を重ねる様式のもの2基が納めてある。本来は一石造りの双塔を納めたものであろうが、1基欠われて他のものが替りに入れられたものと思われる。一石造りの塔は高さ約45cmで、当地区では初見であり、省略された製作から近世前半頃まで時代の下るものであろう。

9) 宝蔵寺跡

加茂小学校東側の丘陵地（現在公園になっている）あたりに位置する。北から小谷が溝

入して丘陵は括れているが、さらに東にも丘陵があり飄草形をなす。公園化のため旧状は知るべくもないが、丘陵北端には大きな堀切りがあり、砦のような構成とも思われる。またこの地内には「経藏」もあり、近世末の宝篋印塔が建ち、「妙見大菩薩」と刻んである。

また字経藏の丘頂付近には直径6mほどの小マウンドがあり、寺院に関係する遺構かと思われる。このように東西300m以上にわたる大規模な寺院跡であるが遺構は不明な点が多い。

10) 猪尾社跡

猪尾字鉄穴地の丘陵端に近い中腹部にある神社跡で、25×8mの削平地である。この社は近年東谷八幡宮に合祀された。現地には石段・手水鉢・礎石片等と共に自然石の碑状のもの4点

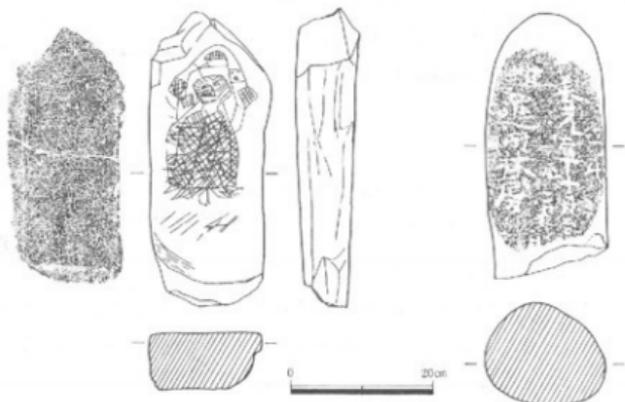


図6 猪尾社跡

も残されていた。これは既に中林季高氏によって記録されているが、碑文のあるものと線刻人物像のあるものがある。

1. 碑文名 「承元二年戊辰十月二日

二七〇 (承元2年は1208年)

○進明林房

2. 線刻人物(鎧兜の武人像?)

この2点は同時代のものか不明であるが、鎌倉初期の遺品で他例のない貴重な碑である。

4. 出土と鏡について

加茂町内では多くの鏡が出土又は保存されている。神原神社古墳から出土した古代鏡は別として、大字神原地区では後ノ廻経塚(胡州鏡)をはじめ字深田字相保塚で出土し、神原神社にも一面保存されている。大字大竹・延野では前大竹・布須神社護符池から出土し

大字東谷では字松賀の荒神の近くから、大字砂子原では字大蛇子の修法塚からそれぞれ出土している。また出土地は不明であるが、宮川宮司所蔵の1面もある。

これらは胡州鏡を除きいずれも室町時代のもので、特に文様が特殊二重圏に菊花をテーマにする（宮川氏藏品・深田出土県博物館藏品を除く）共通性があり、製作がほとんど同時代と考えられる。

出土したものについて立地や埋納状況も類似している。即ち、立地は赤川に面して、又は集落中心部付近に面し

て張り出す丘陵の先端部の高まりであり、大蛇子では小さな土盛りを行っておりこの頂部に小穴を掘って瓦器多数・古銭・鏡を入れ石鉢で覆っていた。他の出土は古く偶然の出土で細部については不明であるが大同小異と思われる。

これらから加茂町内では中世のある時、ほぼ時を同じくして何らかの祈禱修法がなされそれに伴って埋納されたと想像することもできよう。

図示したうち光明寺蔵の和鏡は「大下一」銘の松鶴文様で、江戸時代前期の作で伝世品である。

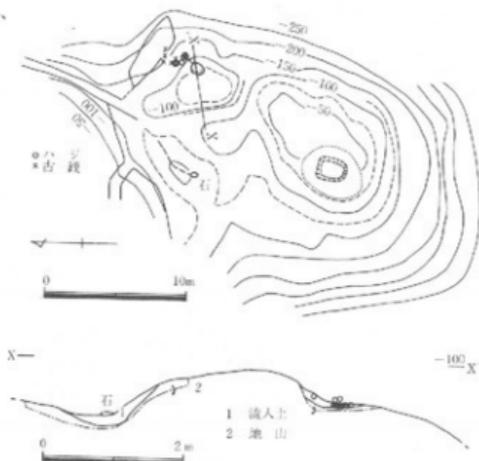


図7 大蛇子遺跡

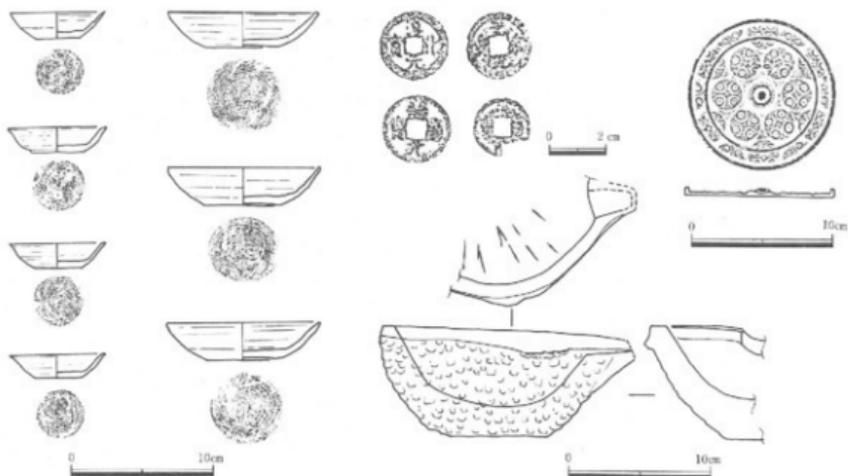
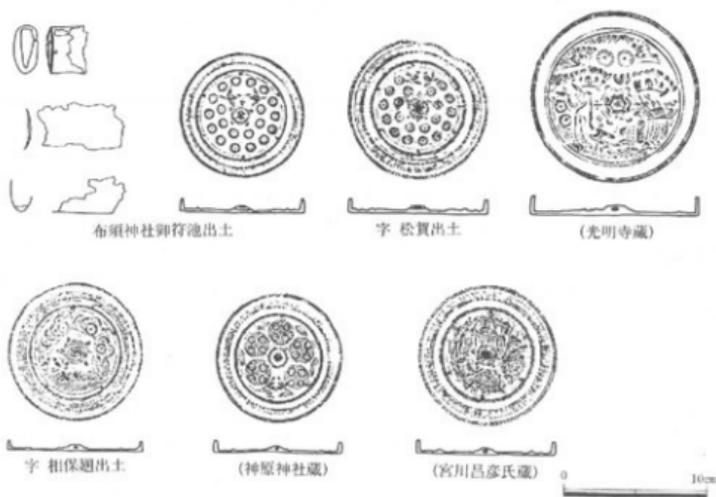


図8 大蛇子遺跡出土遺物



布須神社御存池出土

宇 松賀出土

(光明寺藏)

宇 相保廻出土

(神原神社藏)

(宮川昌彦氏藏)

図9 和 鏡

小 字 地 名 一 覧

（加茂町誌による）

大字大竹

古川 洞内 山院 田ノ原 中節 三巻田 フツミザコ 大田 飯浜 宗大竹 鍋原 杉樹谷 神田
遠ノ前 山根 川原 宮田 宮ノ上 芝原 壺越 獅子ヶ谷 小岩ヶ谷 小木谷尻 小木谷 橋谷
土大成 水越 野野 ウズラヶ谷 井手ヶ廻 カマドリ場 土袋 飯ヶ森 土袋尻 杉ノ谷 和谷
神谷尻 石田 寺谷 寺谷尻 高成 穴ノ前 玉尾 玉尾尻 穴ノ谷

大字延野

穴ノ尻 大尻 読谷大平 読谷 フユガサコ 麦ヶ廻 狐ヶ廻 椋谷 石田 鉄クソ 勢ヶ谷 堀越
後藤 長老平 磨木谷 林ノ原 高峠 丸 小宮田 半ノ田 宮ノ下 古大正寺 オクノマエ 大成
ウナナチ 大正寺 神宮寺ノ上 焼田 曲り田 曲ヤシキ 田中 西ノ上 西ヤシキ インキョヤシキ
上ヤシキ イマイ ユゴ ユゴ下 丸谷 湯後 湯後谷 寺ノ上 埴路 平廻 池ノ上 池ノ根 石尾
津崎 貝田 寺ノ下 堂田 寺ノ沖 貝田廻 池下 上手外 柳ノ尻 湯後ノマエ 堂ノマエ 西ノマエ
定本西ノ谷 定本 境 大田 下大田 田中マエ 田中沖 川原 評田 評田割手ノ上 ハサ 外大田
新尺 永鏡田 惣作田 丸久保 大前沖 徳ノ目 西ノ前 戸井ノ元 仏ノ元 鳥塚 外原井手狭
寺ノ前橋本 小沢 シラフノ元 神田 外原

大字大崎

大岩ヶコ釜ヶ谷 中ノ谷 御分谷 橋ノ木谷 石田 特盛 法ノ木谷 橋負ザコ 大岩 平把原 角尻
福懸 土屋敷 橋原前 松ノ木 小田宮ノ後 若土寺 太郎川内 山崎 日守田 多々 出ノ神 飯屋
川友 酒屋 中宮 松ノマエ 岩原 小廻 牟用地 寺廻 添廻 長廻 越マエ 高峠 矢永坪 井田
新座尻 元宮 水口 堂免 堂マエ 寺中 寺ノ下 浜ノ田 原

大字猪尾

境ヶ谷 笹平 伯母ヶ谷 オノ谷 竹ノ下 タコ山 桜 鉄穴地 奥垣内 小西う子 戸ノ敷 寺ノ前
小西 津屋 紺屋前 門垣内 古保 天場 栗坪 小西尻 廻 オク廻 昆沙門田 廻奥 雨ヶ廻 庄谷
祝木 内原 小谷 大前オク 三室オク 大前 柿添 三室 外原 神門原 安田 中相屋 クラモト
クラモト前 垣妻 土大田 大田割 下小田 上小田 坪田 鍛冶原田 沢田 六石田 小田 中ノ前
古川峠 安田前中島祝肥田 亀ヶ尻 神土井 橋枕 カキ田 郷

大字岩倉

桑木田 代田 井手平 西ノ谷 長ヤチ 長通り 段木 矢腰 三崎谷 高津塚 胡麻廻 洗ヶ谷 井戸
井戸ノ上 伝平 井ノ尻 中堀 一反田 下前田 上前田 向早稲田 新宗寺 上井ノ尻 谷川 内山
原ノマエ 七九大尻 中後 宮崎 宮ノ谷 宮ノ上 桑木谷 宮下 中西 岩鼻 曲谷 ヲハク曲谷
ヲハク 岩竹 宮ノ前 大平 曲り谷 岩謀 待ヶ谷 三崎谷 伊ヶ木谷 堤久保 境ノ谷 伊志見谷
柳木谷 大六廻 山地 土大釜 下大釜 長トロ 大釜 築道谷 松ノ下 四本松 丈六 中川原 矢取
中井田 前田 田中 大田 油田 宮ノマエ 門前 寺中マエ 寺ノフキ 宮後 シミズ廻 三崎ザコ
丸廻 輪坪 土井 土井尻 土井前 寺中 中梅 西ノ原 大成 椎ノ木 小田 大岩尻 坊ノ原 中ノ尻
大岩谷 大岩 若岩 椿原 大岩 雨ヶ廻 別所廻 ミツク 馬名坂 別所 川元 家ノ森 大向 祝廻
引廻 根 殊免

大字東谷

サノメ 因懸 新米向 眞ヶ谷 紀谷 割岩 千馬 日境 荒神谷 家谷尻 カブウネ シバウ子

家ノオク 家ノオク西 ヤノオク西平 岩向 梅ノ木谷 城ヶ谷尻 城ヶ谷鞍懸 大成 ゴラウ 大道
 一本松ヨリ大洞平ツツ 屏風岩 一本松 香神 荒神 オノ神 沢沢 真野谷頭 真ノヶ谷 差ノ前
 川原 福尻鴨 新庄 益田 大田西平 庵寺 林谷 大田尻 中依 マノマエ 下タキ谷 広向畑 滝谷
 上滝 オソゴイ 蛇喰小谷頭 小谷 小谷前平 小谷上 五斗堀 カリ又 片西 広畑 地尾真歌
 家ノオク頭 家奥 家オク西平 地尾 狐谷 平野屋 赤ノ前 輪坪 天堀 廻(正頼寺) 園山 赤坂
 ニツ又 大反代ウ子 大反代 奥成木 角止向谷 長トロ 漆題 四本松 橋上 勝真田 オク土橋
 松賀 曲廻 出雲畑 栃木 宮崎 高ノ前 東センアン シヤカ堂 サカヤ 東京庵 サカ前 堂々
 小廻 堂 堂ノマエ 空笠 大場前 代官家 大年前 清水 ヤケヤ尻 丸谷 清水向 小谷向 城ヶ谷
 小谷向廻 小谷一合谷 カクレザコ 中ノ坪 椿谷 釣場ザコ 釣場 腐題 山神谷 笹ヶ谷
 笹ヶ谷真頭 オク峠 峠ザコ 峠 深坪 松前 志ノマエ 香谷 松前廻 折戸 節 五斗堀 庄田
 九才谷尻 九才谷 下り谷 大堤 寺田 庄 藤田 竹ノ下 門平 玉木 寄居 門平向 田中 古尻ザコ
 北平 中ノヤコ 南ヶ廻 南平 鍋谷 カジヤザコ 湯屋廻 ヨツグ 梨子木 神田平 十月田 木コリ谷
 叶廻 大岩廻 砂田廻 板廻 向山家堂 向山 北砂堀 北石堀 彦太郎廻 清水家上 清水廻 清水
 コトイ堀 中割堀 ニ又ノ上 羽田 ケス田 日鏡 下り田 星野 沖田 細工田 清水前 砂田割田
 砂田 屋敷 向高畦 高畦 尻坪廻 尻坪 小谷尻 宮田 小久保用 五郎次 堀越 水谷 大堤廻 金原

大字新宮

前廻 仏通 堀越 清水免 ヒガン田 宮 宮ノ脇 宮ノ下 宮ノ谷 仲田 ヒエザコ 西ノオク
 中ノ坪 竹ノ下 ヤシキ 内谷 向マトバ 中マトバ 上マトバ 神田 有金 道ノ前 下マトバ 六後尻

大字砂子原

夏ウネ モヨシ免 段々ヶ廻 庄太郎田 梅ノ出用 ユズリ畑 弥次郎ノ廻 釜ヶ谷 トカイサクラ
 ニ反田 中倉 五斗堀 中倉尻 大堀 松ノ後 大谷 ノノ谷 上大谷 岩岩 深山ヶ廻 東ヶ廻 六釜
 堀内 下大谷 西ノ廻 蛇バミ 五斗堀 大谷 五斗堀 小林 石堀 十月田 延ノ木 有久 大日山
 山崎 湯屋 峠 昭田 小廻 叶廻 畑谷 ウゴノメ 早稲田向 床畑 御廻 畑ヶ廻 大畑ヶ 六百田
 四百田 桑木廻 竹林 山崎 向田 ウノ免 大反田 釣場 仲田 湯屋向 前田 彼岸田 小畑
 蛇バミ 寺田 井戸ノ奥 東 蛇バミ 五才田 オノ神 餅廻 五才田川西 三久保田 天場 水落
 岡田 脇田 ハシモト 紙屋 面廻 面廻西ノ谷東平 大蛇子 水原 岡田前 向前田 金原 高社
 根ヶ市 轟ヶ市 大平 墨水ヨホリ 世堀 佃 マガタ 長サコ 長サコ休場 下藤ヶ市 床田 百ホリ
 上ノ郷田 城ノサコ 八反田 高畦向 神田 広畑 新田 大成 荒景 新屋 森 宮ノ前 森田端
 宮ノ下 宮ノ上ノノ子 長サコ屋水 砂坪 ウルシ目 堀越 漆免堀越 伊屋谷 伊屋谷サコ
 ウルシメシ 鬼 ヤウチカ上 九月田 丸ザコ ニ又 持ヶ廻 榎サコ 新近 川ブチ スナ田
 ソウソウ 又場 大林 芝原 松ノマエ 奥ヶ市 三月田 境 村重 直屋 紙屋 横田 宮ノ輪 掛田
 掛田山 八郎ヶ谷 畑田 虎免 大江 三次堀 曲り 小宮田 蓮田 宮ノ前 長サ 高畑
 ヒヤチン 梅ノ木田 湯頭 橋ヶ廻 瀬戸 カジヤ 滝ノ上 セト 向戸田 ヤシキ前 クラノ上 小廻
 堂ノ以後 城ノ奥 大成 寄江 八門グリ 日鏡田 浜井湯 戸田 屋ノ内ヶ谷 ハツコ保 十六 鍋廻
 堂田 中曾根 畑ヶ田 屋田 柳免 高麻山 立脇 而廻上ノ谷西平

大字加茂中 (明治22年 字切図による)

1. 平 平古川 岩浜 永配 石屋 上柳ノ木 古川廻 古川跡 平三角 平永配 金丸 平古川跡
 平鈴元 平雲浜 三月田 金丸古川跡 叶井廻 星野 平砂見道 平金丸 平菓ノ下 平家ノ後
 金丸麓助後 金丸家ノ上 金丸滝〇〇家上 叶堀氏古上 叶廻家ノ上 叶廻家ノ家

叶廻家ノ東統 叶廻家東林三郎北 叶廻家東統下夕一叶廻林三郎家東 金井廻 叶廻下夕

2. 叶廻 五百登地 三月田 金丸古川跡 五百ッ市 藏福寺 黒子 浅坪 古川跡黒子 古川跡
黒子藏福寺 黒子古川跡 内垣 熊ノ田 吉野 熊野田 黒子上ノ切 叶廻林三郎家ノ上
叶廻林三郎家ノ南 黒子下夕切 吉野家ノ上 狐塚 吉野五斗堀 五斗堀道ノ向
 3. 吉野 五斗堀 吉野西ノ奥 吉野東ノ廻 助五郎田 玄杖田 五斗堀道ノ〇 吉野美 石廻
千場 狐塚 吉野西廻 吉野与三三石エ門谷 吉野石廻 三衣尻 鉄穴地
 4. 出合神楽田 黒子前古川 黒子前古川跡 熊野田 熊野 蓮花田 出合 朽木 朽木 山合門田
上出合 森政 出合ノ上
 5. 清水 山ノ神 堂免
 6. 後谷 堂免 古城 熊野田 代々 取ノ上 砂子原地 石田 標田
 7. 千代廻 高サ 高麻
 8. 高サ 川田 田井 尾添 古々早稲 奥愛早稲 委早稲谷奥 委早稲 代り 霜月
 9. 桃地道ノ下 尾添 桃地 代り 寒飯 新屋 宮田 若月 愛早稲
 10. 若月 カタ山 井山 タコメ 水原 代々 熊野田 香田 経藏 藏福寺 沖
 11. 水原越 水原 深坪 宝蔵寺 宮ノ後 轉負ッ市 宮ノ膝 正法寺 若月 医者地
宮山 経藏 勝負ッ垣
 12. 替地 角力場 宮ノ脇 山居 四社免 金丸 板見堂 二ツ橋 芝原 カキ田 平 宮ノ後
相撲場 御幸場 シクモ塚 越前 平初先 御祭田 アヤメ田 宮瀧田 有常 古川照 鎌田
 13. 平三角 板見堂 平 平土手根 平板見堂 藤カセ 有常 二ツ橋 有常往還南 御祭田
宮瀧田 平土手根板見堂
 14. 山居 山居前 宮ノ前 細縄 経藏 持田 三田原 町縄手挟 代官家下 鳥居奥 樋ノ口
番田 新町尻 正法寺 持田 大土手根 大曲り 米塚
 15. 廻田
 16. 舟場 金川 鎌田 向原 見堂寺 向原カキ田 船場 井下屋堀
 17. 向原 椿原 カキ田 見堂寺
 18. 立石 樋口 立石前 大西境 蔵ノ上 奥廻田 大首
- (欠号) 本町南側 本町西側 横町南側 横町西側 横町北側 新町南側 新町北側 田町 廻田西側
町後 三田原 三田原道挟 持田 大土手根 立石 倉敷 新小路南側 香田 山根 山根小路
町屋北側



1～5 垣ノ内横穴群
6・7 玉尾谷灰横穴群
8～10 穴ノ前横穴群

11 奥ノ上古墓付近出土
12 松ノ木出土
13 東谷谷横穴



1



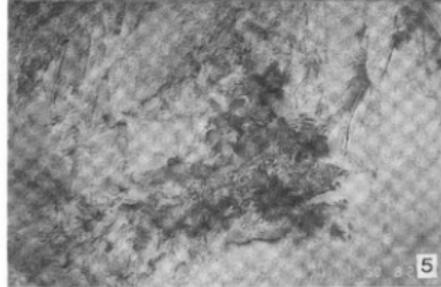
2



3



4



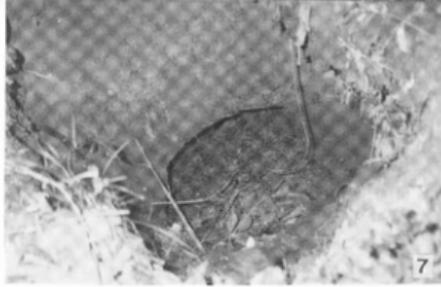
5



6



8



7

- 1 塚ノ内・穴ノ前横穴群
2 玉尾谷尻横穴群
3 穴ノ前横穴群

- 4 叶廻横穴群
5 寺廻横穴群
6 星野横穴群

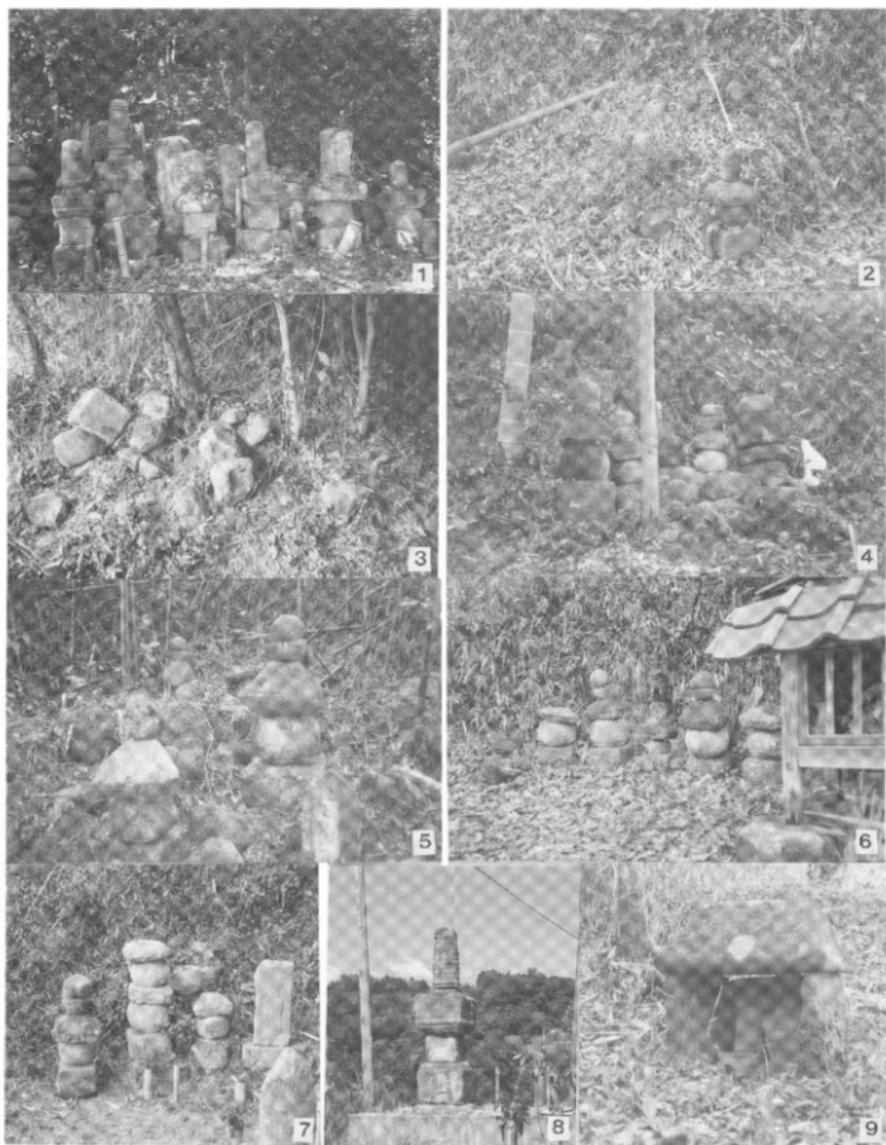
- 7 星野横穴群
8 土器廻古墳



- 1 猪尾城跡
2 小丸子山城跡
3 奥垣内砦跡

- 4 尾添上砦跡
5 大首砦跡
6 相保廻和鏡出土地

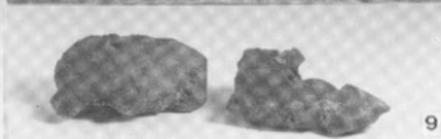
- 8 坊ノ奥経塚
9 深田和鏡出土地
9 松實和鏡出土地



- 1 光明寺の古墓
- 2 神宮寺上の五輪塔
- 3 蔵本古墓群

- 4 奥ノ上の五輪塔
- 5 鍋谷の五輪塔
- 6 才明寺の五輪塔

- 7 金丸の五輪塔
- 8 結宗寺の宝篋印塔
- 9 尾添の宝篋印塔

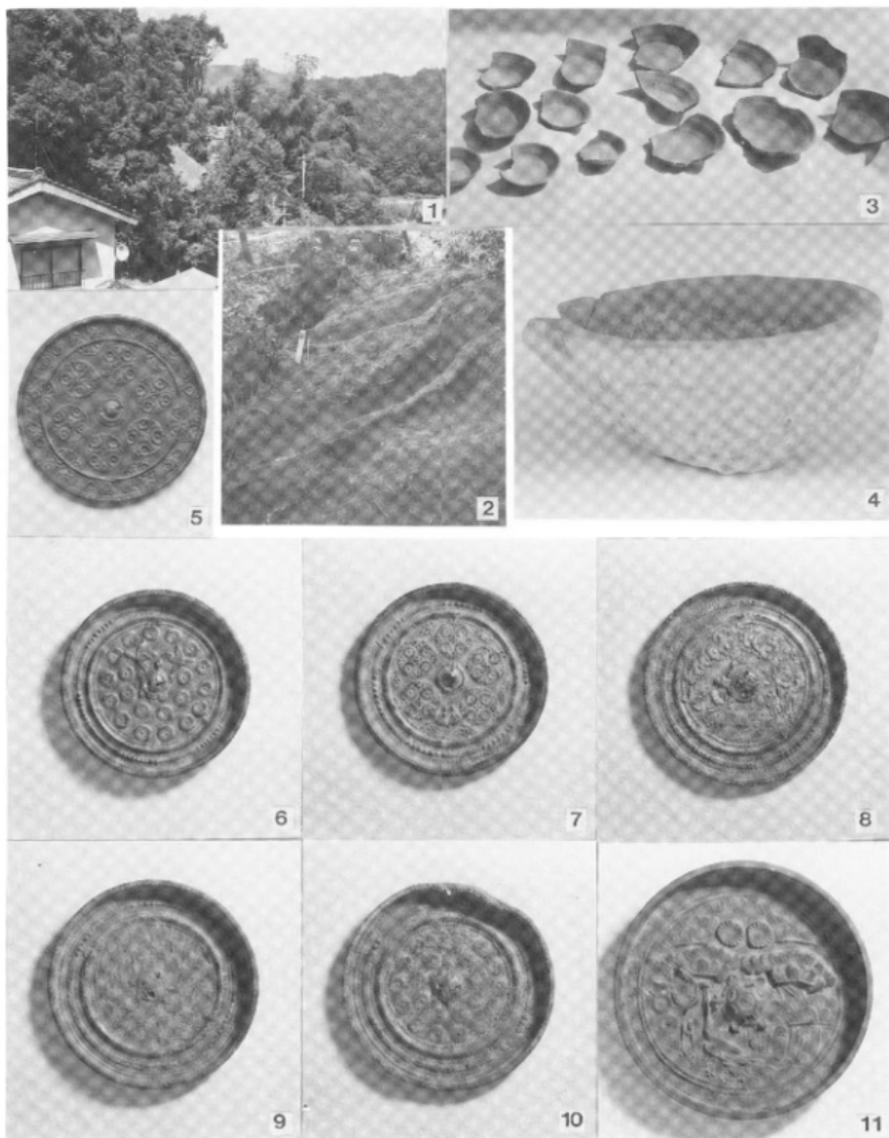


1~4 猪尾社跡

- 1 遠景 3 「承元」銘碑
2 碑石集積 4 線刻人物像碑

5 滝谷尻銅跡

- 6・7 三室鍛冶跡及び鉄滓
8・9 鉄クソ銅跡及び鉄滓



1~5 大蛇子遺跡

1 近景 3 土師質土器

2 埋納坑 5 和鏡(菊散紋双鳥鏡)

6 布須神社藏(散菊双鳥鏡)

7 神原神社藏(菊散紋双雀鏡)

8 相保邇出土(洲浜菊双雀鏡)

9 宮川氏藏(籬松双鳥鏡)

10 松賀出土(散菊双鳥鏡)

11 光明寺藏(菊紋松樹双鏡)

詳細分布調査報告書

加茂町の遺跡

— 赤川以北 —

平成3年3月

発行 加茂町教育委員会
島根県大原郡加茂町大字加茂中

印刷 佐木次印刷
島根県石郡三刀屋町三刀屋

